

平成 27 年地球環境自然学 開講式および第 1 回講演会

日 時	平成 27 年 4 月 11 日（土） 13:00～16:00
会 場	此花会館 梅香殿 3F 大ホール
講 師	京都大学名誉教授 田中 克
演 題	平成 27 年度「自然学」の狙いと構成 今なぜ森里海連環学か
備 考	参加者 209 名 記録 飯田正恒

1. 開講式

開講にあたり、斉藤 隆代表が本年度の講座のテーマを「森里海連環学」としたと、極めて魅力的なテーマと講師陣を予定しており休まず聴講していただきたいと挨拶の後、コーディネーターとしてお招きした京都大学名誉教授 田中 克先生を紹介された。続いて田中先生のご挨拶、地球環境自然学・長野代表のスタッフ紹介があり、開講式は滞りなく終了した。



斉藤代表

2. 第 1 回講演会 京都大学名誉教授 田中 克先生

(1) 「自然学」の狙いと構成

テーマを『森里海連環学』にした理由と本テーマを 3 年間継続して行なうこと、ならびに本年度のカリキュラムの講師と講座の概要の説明があった。さらに来年度、再来年度に予定の講師陣を紹介、「森里海連環学」を本講座を通していっそうの発展を企図する先生の並々ならぬ決意が感じられた。



田中 克先生

(2) 今なぜ今森里連環学か？

食料、資源、エネルギー、人口増加、環境など早期に解決を迫られた多くの地球的課題の中でなにが最も重要か、それはこの地球とともに生きる全てのいきものに共通の「環境」問題である。東日本大震災からなにを学ぶか。それは物質文明のあり方を見直し、新たな「生命文化」とでも言うべき文明社会の創出ではないか。社会運動「森は海の恋人」や、森から海までの多様なつながりを紡ぎ直す統合学問「森里海連環学」はまさにこれらの命題への答えを求めている。詳細は配付資料参照。難しい内容であるが先生は非常に分かり易く説明され、いねむりする人もなく、講義に聴き入った。

(3) 新しい学問の誕生ー森里海をつなぐ有明海の稚魚たちに学ぶー

福岡県立伝習館高校の講義に使用した P P を使用しての講義で、(2) 項が「森里海連環学」の理念を述べられたのに対し、この項は森里海連環学の研究活動の足跡を豊富な写真で解説され、興味深かった。



受付の光景



長野代表、スタッフを紹介



講演会の光景